石破茂内閣 発足

第24代文部科学大臣に阿部俊子衆議院議員

――文科副大臣からの就任で初入閣、宮城県出身の65歳――

自民党の石破茂総裁は10月1日、臨時国会で第１０２代首相に選出され、石破内閣が発足した。第24代文部科学大臣には文部科学副大臣の阿部俊子氏（65）が就任。阿部氏は初入閣となる。

阿部氏は東京医科歯科大学（現、東京科学大学）大学院助教授や日本看護協会副会長を経て、２００５年に国政に進出した。衆議院比例中国ブロック選出で現在６期目。農林水産、外務の両副大臣を歴任し、２０２３年12月から文部科学副大臣を務めていた。

阿部新大臣の就任会見が10月2日、文科省で行われ、その後、盛山正仁前大臣と阿部新大臣による事務引継ぎ式が行われた。

事務引継ぎ後、新旧大臣は旧庁舎6階講堂で幹部職員を前に就任挨拶を行い、阿部大臣は「新しく文部科学大臣を拝命いたしました阿部俊子です。副大臣をさせていただいておりましたが、この重責を皆さまとともに担わせていただきながら、人づくりは国づくり。皆さんと一緒に頑張ってまいりたいと思いますので、どうぞご指導よろしくお願いいたします」と意気込みを語った。

引継書を掲げる盛山前大臣㊧と阿部新大臣

引継書に署名する盛山前大臣と阿部新大臣

盛山正仁前大臣の退任挨拶

「副大臣であった阿部俊子さんが、文科大臣として昨日ご就任されました。文部科学省を取り巻く多くの課題がありますが、一つひとつ取り組んで、文部科学省を前進させていただければと心から願う次第です。

この一年、教育、科学技術、スポーツ、文化芸術と、本当に幅の広い分野で皆さんと一緒に仕事をさせていただいて、本当にありがたいことだ、幸せなことだと感じた次第です。皆さま方のおかげで、少しは私自身の知見も広がり、文部科学行政というものを少しは理解することができたのではないかなと思っています。

（大学卒業後）昭和52年4月に旧運輸省に入りました。当時の田村元（はじめ）大臣が退任する際、『自分はこれまで〝カングン〟だったが、これから〝ゾクグン〟になる』と述べられました。これは、明治維新の時の〝官軍〟〝賊軍〟という意味ではなくて、〝運輸族〟になるという意味で言ったのだと思います。私もこれから〝文部科学族〟として、皆さま方を党の側から、国会の側から少しでも、お支えすることができればなと思います。

とはいえ、われわれ衆議院議員でございますので、洗礼を受けなければなりません。何をしてくれというわけでは決してないですが（笑）、議席を得ることができれば、今月末にまた国会に戻って来られるようになれば、私自身が積み残した多くの懸案含めて、ぜひとも、皆さまとともに汗をかかせていただきたいと思います。これからもどうぞよろしくお願いいたします。あらためましてこの一年大変お世話になりました」

感謝の言葉を述べる盛山前大臣

博士号取得者が連続就任

阿部文部科学大臣が就任会見「誰も取り残さない」

石破新内閣が10月1日に発足した。文部科学大臣には、前文科副大臣の阿部俊子衆議院議員（65）＝比例、当選６回＝を起用した。阿部氏は初入閣となる。

阿部氏は１９９７年に米国・イリノイ州立大学シカゴ校大学院で看護学の博士号を取得。東京医科歯科大学（現・東京科学大学）の助教授や、日本看護協会副会長を務めた。その後、政界に転じて２００５年の衆院選において初当選。これまで外務副大臣、農林水産副大臣、文科副大臣を歴任している。また、博士号を持つ文科大臣は、盛山正仁前文科大臣に続くものとなる。

◇

内閣発足翌日の2日、阿部文科大臣は就任会見を文科省で開き「私自身が看護師ということもあり、誰も取り残さないことは大切だと考えている。文部科学省が行う行政分野は、個人・社会の未来を切り開くために極めて重要な分野だ。文部科学大臣として国民の皆様が夢や希望を持ち、それを実現できる社会を目指していきたい」と抱負を述べた。

東京大学の授業料値上げについては「授業料は大学それぞれの置かれている状況に応じて適切に判断いただくもの。東京大学の授業料改定は他の大学に波及するものではない」と強調。「国立大学が引き続き、我が国の人材育成、学術研究の中核として、安定的に教育研究が実施できるように運営費交付金の十分な確保に全力で取り組んでいく」と語った。

教師を取り巻く環境整備については「本当に厳しい中で教員が気概を持って頑張っているが、気概だけでできる話ではない。財源を確保していきながら、頑張っている先生方をしっかりと応援できる体制を作っていきたい」と意気込んだ。

研究力の向上については「論分数の指標が相対的に低下しており、その向上が急務であると強く認識している。関係省庁と連携していきながら研究力向上に向けた取り組みを全力で進めていきたい」とし、さらに「研究者の方々の現場の声をしっかり聞きながら、さらには何を加速していかなければいけないのかということも模索していきながら、ご指導賜りたい」と述べた。

また、旧統一教会との関係を問われ、阿部文科大臣は「私が知っている限りあの団体との関係はない」と説明。解散命令請求についても「今後も法令に乗っ取りながら引き続き適正な対応を取ってまいりたい」と語った。

就任会見で抱負を述べる阿部文科大臣

盛山文科大臣が退任会見

働き方改革「成果には時間要」

盛山正仁文科大臣が10月1日、文部科学省で最後の会見に臨み、昨年9月13日に就任してから約1年の任期を振り返った。

教師の働き方改革では、8月に中央教育審議会から提出された答申を踏まえ、「教師を取り巻く環境整備 総合推進パッケージ」を取りまとめている。盛山文科大臣は「目に見える成果が出てくるにはまだ時間がかかる」としたうえで「お子さんからすると先生は絶対的な存在で、その役割は大変大きいものがある。尊敬する先生は、一生忘れない存在となる。我々もできるだけ先生方の働く環境を改善したい」と述べた。

盛山文科大臣

任期中の海外出張を振り返り「強く印象に残ったのはウクライナとポーランド。ウクライナでは、今後の復興に向けて協力等ができたのは良かったと思う。ウクライナにとっても文部科学大臣が訪問したというのは初めてと聞いた。ポーランドも文部科学大臣が行くのは初で、各国から日本の文科省に対する期待が高いということは強く感じた。今後とも文部科学大臣には色々なところへ行って協力を進めていって頂ければ」と語った。

また、同日に発足した東京科学大学について「それぞれ立派な大学である東工大と医科歯科大が合併するというのは大変なインパクトがある。同じ大学という傘の下で色々なアイデアを出していくことで新しい課題等の解決を大きくけん引する大学になるのではないかと期待している」と述べた。